妙見山からみた日の出
撮影場所　養父市八鹿町（妙見山）

迎　春

兵庫消防

発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人　関山　巧
定価　1部金44円
題字　井戸知事

あなたです
火のあるくらしの
見はり役

兵庫の強みを生かす

兵庫県知事　井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

平成十八年が始まりました。今年は国体が開催されます。

震災復興に寄せられた多くの支援に感謝を込めて、全国の人々を温かく迎え、県民あげて元気な兵庫を発信していこうではありませんか。

兵庫の広大な県土には、様々な風土や文化、生活があります。

進取の気性に富み勤勉で独創的な人々、世界水準のものづくり産業や地場産業、自然の恵みを生かす農林水産業、高度な教育機関や豊富な文化資源、全国有数の交通基盤と利便性の高い都市機能、豊かな自然環境など、多くの可能性に満ちています。

大震災からの復旧復興に結集された人々の英知と努力は、どのような課題も克服していく大きな力になりました。ボランティア活動の広がりや住宅再建共済制度などの先導的な取り組みも、内外から注目を集めています。

多様性と個性。これこそが兵庫の特色、全国に誇る強みではないでしょうか。

コウノトリの野生復帰が進み、神戸空港など交通基盤も整い、スプリング8など産業支援も充実します。

私は、大空に、そして世界に羽ばたく兵庫を心に描き、その強みを最大限に生かして、元気な兵庫づくりに全力を注ぎます。

県民生活の安全と安心の確保。

人、産業、地域の元気づくり。

分権社会の新たな自治の確立。

「参画と協働」を基本に、成熟社会にふさわしい兵庫、美しい兵庫をともにめざしましょう。

心から　感謝をもとに　立ち上がる
故郷兵庫　豊かな地域

新年のあいさつ

財団法人　兵庫県消防協会
会長　関山　巧

あけましておめでとうございます。

県下の消防団員をはじめ、消防関係者の皆様方には、ご家族ともどもお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申しあげます。

皆様方には、日々訓練を重ねられ、災害時には危険に身を挺し、地域住民の生命と暮らしを守るため献身的にご尽力されておられますことに対し、心より敬意を表します。

さて、近年各地で大規模災害が多発しておりますが、我々消防団は、常に地域防災の中核として、地域の安全確保に重要な役割を果たしており、今後もさらなる貢献が期待されているところであります。しかしながら、団員の減少や消防団員のサラリーマン化、高齢化など、様々な問題に直面していることも事実であります。

こういった中、住民の期待と信頼に応えるためにも、時代に即した消防団づくりに積極的に取り組んでいかなければならない時代になってきていると感じているところであります。

本会としましても、今後とも消防団の活動をサポートしてまいりたいと考えておりますので、皆様方には、どうか消防団の充実強化になお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして年頭のご挨拶といたします。

謹んで新春の御挨拶を申し上げます

財団法人　兵庫県消防協会
平成十八年元旦

総裁　井戸敏三
副総裁　藤本和弘
〃　齋藤富雄
〃　東田雅俊
名誉会長　溝口信次
会長　関山巧
副会長　前田民雄
〃　岸谷義雄
〃　田中利昭
〃　梶原哲
〃　小林正幸
〃　田中旭
〃　片岡稔
〃　坂下邦男
〃　米山昇
監事　志井一雄
〃　遠藤明
〃　望月昌次

年頭の辞

消防庁長官　板倉　敏和

平成十八年の新春を迎えるにあたり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃のご尽力に対して心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は一昨年に比べ、地震や風水害等による被害は減じたものの、大規模な列車事故が発生する等、近年の災害は、頻発、多様化、大規模化の様相を呈しており、様々な災害に対し、迅速かつ的確に対応していくことが求められるとともに、有事に備えた国民保護など、新たな対応も必要となってきています。

このような中、我が国に大きな優位性がある国民の安心・安全を維持向上させるため、消防防災力を強化し、災害等から国民を守る体制を整え、大きな変革の時代に対応していかなければなりません。

このため、消防庁では、国民保護及び大規模災害への対応力を強化するため、国民保護・防災部を設置し、消防庁ヘリコプターの整備、大規模災害時における初動時の情報収集、緊急消防援助隊の派遣体制の整備等を図るとともに、国民保護法の施行に伴い、昨年3月には、都道府県国民保護モデル計画を作成し、本年度中には、市町村国民保護モデル計画を作成し、皆様にお示しする予定としております。

また、大規模災害やテロ・有事等に対し、全国的見地から国民の安心・安全を確保する体制を強化するため、緊急消防援助隊の登録部隊数を増強するとともに、高度な救助用資機材、特殊車両及び高度な救助技術・知識等を兼ね備えた救助隊員で構成される「特別高度救助隊」、「高度救助隊」を創設することとしています。

さらに、少子高齢社会の進展や市町村合併の推進を踏まえ、今後の消防体制のあるべき姿について各消防本部において十分に御議論いただくことが重要だと考えております。消防庁においては、「今後の消防体制のあり方に関する調査検討会」の検討結果を受け、今後の消防体制の更なる強化のために消防本部の広域化を推進するための新法を次期通常国会に提出すべく、現在検討を行っております。

一方、大規模災害に対応するためには、消防力の強化のみならず地域の防災力を強化し、消防との連携を図っていくことが重要であり、消防団・自主防災組織の充実強化をはじめ、地域単位でのきめ細かな安心・安全の地域づくりのため、地域安心安全ステーション事業や地方公共団体と事業所間の防災協力の推進等の施策に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

皆様方におかれましては、我が国の消防の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

財団法人　日本消防協会
会長　徳田　正明

平成十八年の輝かしい新春を迎え、全国消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

消防団員・職員の皆様が、常日頃、防災の最前線にあって、昼夜を問わず、火災をはじめあらゆる災害と闘い、国民の生命、身体、財産を守るため、献身的にご努力されていることに対し深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。また、防災関係諸団体の皆様が平素から、防火防災に深いご理解を賜り、熱心に活動されていることに対してしても、深く敬意を表する次第であります。

我が国は、自然災害の多発国であり、これまでにも多くの大災害に見舞われ、甚大な被害を受けております。特に昨年は、福岡県西方沖地震の発生、兵庫県尼崎市の鉄道事故、さらには記録的な集中豪雨等、予期せぬ大規模な災害が相次ぎ、多くの尊い人命と貴重な財産が奪われました。

また一方で、近年の急激な社会情勢の変化の中、火災その他の災害は複雑多様化し、住宅火災における死傷者は後を絶たず、その対応には大変な因難を伴うこととなっております。

このような中で、我が国消防は、関係者の懸命の努力により年々充実強化され、国民の大きな信頼と期待を得るに至っておりますが、大型地震の発生が現実の問題として論議され各方面で対応策を進められる中、地域の安全と住民の安心を確保するためには、これまで以上に英知を結集し、装備の充実等を進めるとともに、崇高な消防精神の高揚と消防の一層の団結強化が不可欠であります。

当協会としましても、こうした状況を踏まえ、引き続き、消防団員の確保・増員をはじめ、消防資機材の整備充実、優良消防団員・職員の表彰、消防団員の教育訓練などを積極的に推進するとともに、女性消防団の活性化、消防団員・職員の福祉対策事業、互助年金事業の拡大等を図り、消防団員・職員の益々の士気高揚と我が国消防の発展のため、今年も最大限の努力を傾けて参りたいと考えております。

全国の消防関係者の皆様におかれましても、地域住民の安全、安心と郷土の繁栄のため、より一層のご精進を頂きますようご期待申し上げます。

終りに、皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年が災害の少ない一年でありますよう心から祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。

平成十八年元旦

消防団今昔 ㊼

「より強固な尼崎市消防団を目指して！」

尼崎市消防団長　生越　敏雄

市町村合併が全国各地で行われている昨今、歴史を紐解くと、尼崎市も現在の形になるまでに、四度の合併を行っています。

ご存知のとおり、尼崎市は猪名川と武庫川に挟まれた、兵庫県の東端に位置します。かつては、大和や京といった政治・経済の中心地と、西国・瀬戸内を結ぶ、陸海の交通拠点として栄え、大坂の西に位置することから、尼崎城を中心とした城下町として発展してまいりました。

明治二二年の町村制度施行時、現在の尼崎市域には、尼崎町、小田・大庄・立花・武庫・園田という村が設置され、消防の組織としては、それぞれに「消防組」がありました。

このうち、まず、尼崎町と立花村の一部を合併して、大正五年に最初の尼崎市が誕生。その後、昭和十一年に小田村と、昭和十七年には大庄村・武庫村・立花村と、昭和二二年に園田村と合併し、ほぼ現在の尼崎市域となりました。

この間「警防団」から「消防団」へと名を変えていくのですが、合併したとは言え、歴史の名残からか、かつての町村単位である六つの消防団が、市内に存在しており、それぞれに活動を行っておりました。これを、更に統制の取れた強固な組織とするため、昭和三七年に消防団も一市一団五八分団に統合し、かつて兵庫県消防協会長も務められた、尼崎市消防団名誉消防団長の溝口信次氏を初代団長に迎え、新たなスタートを切りました。

私が消防団に入団したのは、統合前の昭和二五年一月。平成十四年四月に、歴史ある尼崎市消防団の第三代団長に就任し、入団以来早くも五六年の歳月が流れました。

城下町から重工業地帯、そして都市化へと、市内の様相は日々刻々と様変わりしている尼崎市ですが、四九・七七㎢で山が無く、市域の三分の一が海抜０ｍ以下の地形から、消防活動は勿論、水防活動にも意を配して、昔から言われている「自分達のまちは自分達で守る」消防団精神を継承し、千人の団員が「尼消は一つ」を合言葉に、常備消防と一丸となって、四六〇、〇〇〇市民の安全と安心のため、日夜精進しておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

元温泉町消防団長　西村　英作

昭和三八年、温泉町消防団に入団し、昨年九月に退団をいたしました。消防団員として歩んだ四二年間の雑感をのべてみたいと思います。

旧温泉町消防団は昭和二九年、団員数は一、〇三三名でしたが、機構改革で昭和五〇年に五一一名となり、昭和六三年には三〇四名となりました。昨年十月の浜坂町との合併で新温泉町となり、今は温泉支団として三〇四名で地域防災に取り組んでいます。

少数精鋭の消防団を目指して今日に至っていますが、当地は人口に比べて広い管轄面積をもっているため、台風による風水害、行方不明者の捜索、林野火災の対応など、人力を必要とする事態に対しては安心できる状況にはありません。一昨年の台風二三号でも実感したところですが、町内で数地区が一時的に孤立し、長時間停電状態の地区や、道路が寸断され、安否情報もとれない状況も発生しました。こうなれば、各地区ごとで独自に災害防止と、情報伝達手段をもたなくてはなりません。消防団員と自主防災組織の二人三脚で災害に対応いたしましたが、この様な時、改めて消防団ＯＢの支援を心強く感じました。

また、風水雪害の雨量の情報を得る手段として、町の情報のみを頼るのでなく、各集落が独自で雨量を計り、インターネットを通して気象情報を収集し、各集落で防災に取り組む必要性を感じています。「私の集落は災害時の対応は万全か」を皆が考え、消防団員の使命と役割を集落ぐるみで、そして、「安全」について検証する必要性を感じています。

今後も引続き消防団の皆様と、年に一度は出向いて話し合いがしたいものだと考えています。

わがまちの団長さん ⑬⑪

「自分のまちは自分で守る」

宍粟市波賀消防団
田中　敏廣　団長

宍粟市波賀町は、兵庫県の中西部に位置し、北には県下最高峰の氷ノ山、中央には清流引原川が流れ、中国山地の影響を受け内陸型気候で積雪量も多く、自然豊かな人情あふれる町です。我がまちの団長さんは、昭和四〇年一月五日波賀町斉木分団に入団され、持ち前の行動力と統率力が評価されて数々の役員を歴任し、平成十七年三月二一日、団長に就任されました。

一昨年は度重なる台風の上陸を受け、災害対策活動中の団員が殉職という取り返しのつかない事故がおこり、自然災害の恐ろしさを思い知らされました。この尊い犠牲を教訓とし火災や災害から、地域住民の生命、財産を守るための消防体制の確立、そして組織強化、また最近では、消防団員の減少に頭を痛められており、啓発、勧誘に奔走し、団員数の確保に力を注いでおられます。

平成十七年四月に合併を行い宍粟市となり、合併後も消防団の住民を守る役割には何ら変わりもなく、波賀消防団の発展のために、なお一層の活躍が期待されています。

「闘う志士集団・南あわじ市消防団」

南あわじ市消防団
真野　和典　団長

淡路島の南西部、神戸市から車で五〇分のところに位置する『南あわじ市』は平成十七年一月十一日に旧三原郡四町が合併して誕生した人口五五、〇〇〇人の街です。合併から一年が経ち、南あわじ市の歴史を刻み始めました。

南あわじ市消防団は新市誕生と同時に発足し、団員数が二、二二六人という大所帯の消防団です。その先頭に立つ真野和典団長（旧三原町消防団長）は常にスローガンを掲げています。

今年は『闘う志士集団・南あわじ市消防団』をスローガンに掲げ、「地元地域において消防団はどういう役割を果たせるのか？」と地域における消防団の立場を見つめ直し、例年行われている行事についても取り組み方をいろいろと変えて実施しようと考えています。本来の消火・防災活動だけではなく地域の防犯活動にも取り組もうと考えています。

日頃『失敗してもかまへん。やらんかい！』『合っていようが間違っていようが男が一度決めたことを後になって迷うな！』『やってやれない事は無い。やらずにできるはずが無い！』と檄を飛ばします。団員・事務局は行事の度に毎回ドキドキします。しかし団の方向性をしっかり示してもらえるので、付いていけばヘロヘロになりますが、達成感と充実感があります。

普段、真野団長はJAあわじ島の職員として南あわじ市の農業発展を追求しております。最近では、淡路の玉ねぎ・レタスのCMがテレビで流れるようになりました。

『周囲のみなさんに支えられ今がある』と常々言う『地域活動の鬼』真野団長。南あわじ市消防団は真野団長の『これでもか！』に負けない強い強い消防団として淡路島内は勿論、県下の消防リーダーとして更に活躍頂くことを事務局は願っております。

北から南から

「活力にみちぶん化のかおる住みよいまち香寺」

香寺町消防団

香寺町は、兵庫県中南部の神崎郡の南端に位置し、東西五・三七km、南北九・七kmで総面積は三一・五二km^2を有し、まちの大半は平坦地で、西部と北部には西播丘陵が広がっています。そんな緑豊かな自然を有する香寺町は、都市的な機能も備え、まちの東端を南北に流れる市川に並行して、JR播但線と国道三一二号線が走り、JRを利用すれば約二〇分で姫路駅に到着します。このように自然美と、都市機能が絶妙なバランスをとる理想の田園文化都市です。

香寺町が町としての歴史を刻み始めたのは、昭和二九年に香呂村と中寺村の合併がスタートですが、古くは播磨国風土記に「的部（いくはべ）の里」として登場しており、脈々と続く歴史を今に物語る多くの由緒ある寺院、史跡が散在しています。中でも八徳山八葉寺は、天平八年（七三六年）行基上人が開いたとされており、その後、平安時代の中頃、慶慈保胤（よししげのやすたね）が出家し、比叡山で修行のうえ、寂心上人として当山に入り、当寺を中興しました。石切の橋をわたした睡蓮池の弁天堂や古風な鐘楼、正面には高い石垣の上に荘厳な本堂を配しています。本尊は十一面観音で毎年一月七日の播磨で一番早い鬼追いは有名で、不動明王、毘沙門天の化身である赤鬼青鬼が、たいまつを手に災厄を払って踊り狂い、息災、延命、豊作を願って餅をまきます。この鬼追いには、毎年多くの人が福を求めて参詣されます。

また、香寺町は聖徳太子ゆかりの地であり、推古天皇の二二年（六一五年）太子の勅願により、JR溝口駅の東にある現在の聖徳山圓覚寺のあたりに七堂伽藍が建立されたと伝えられ、それを物語る太子堂遺跡は、県の史跡に指定されています。明治十六年、聖徳太子の威徳を偲んで再建された溝口太子堂で、毎年二月二二日に行われる太子例祭は、「おたいっさん」の呼び名で親しまれ、太子会大法要修行が盛大に営まれます。境内には様々な露店や植木市が並び、大福引なども行われて、近郷からの大勢の参詣客でにぎわいます。

さらに、香寺町には世界的にもユニークな博物館として評価されている「日本玩具博物館」があります。昭和三八年、館長の井上重義氏が二四歳のとき、一冊の郷土玩具の本との出会いから、会社勤めのかたわら全国を歩き廻られ、失われゆく子どもの文化財を後世に伝えたいと玩具の収集を始められました。その資料公開のため、私費で約四六m^2の井上玩具資料館を設立され、以後施設と内容の充実に努められ、昭和五九年に館名を現在名に改称されました。現在の施設は、六棟七〇〇m^2、延べ一六〇mの展示ケース、世界一四五カ国八万点余りの資料が所蔵されています。

コレクションは館長が収集したものを中心に、大勢の玩具や人形を愛する人々から寄せられた「凧・コマ・手まり・祭りの玩具・雛人形・ちりめん細工・世界の船・音の出る玩具・世界のクリスマス玩具」など、特筆すべきコレクション群がいくつもあります。

皆様も機会がありましたら、香寺町へ一度足を運んでください。

最後になりましたが、香寺町は、平成十六年十一月に女性消防団を団員七名により結成し、昨年十月二〇日（木）神奈川県横浜市日本消防協会中央訓練場にて開催されました、第十七回全国女性消防操法大会に兵庫県の代表として出場しました。

大会本番では、出場順位一番というプレッシャーの中、練習で出したベストタイムと同タイムの五七秒を記録しましたが、惜しくも入賞はなりませんでした。

昨年四月から五〇数日にわたる訓練、その間、町内外から多くの皆様にご支援、激励をいただきありがとうございました。

八徳山八葉寺

日本玩具博物館展示室

第17回全国女性操法大会出場隊

地区通信

「アポロキャップ導入」

洲本市消防団

洲本市は昭和十五年に市制を施行し、淡路地域の行政、経済、文化の中心地として発展してきました。また、歴史的には城下町として栄え、大阪湾・紀伊水道と美しい海岸線の景観に富み、自然環境にも恵まれ、海産物、農産物の豊富な地域です。また、平成十八年二月十一日には隣接する五色町と合併し、新しい「洲本市」が誕生します。

さて、いよいよ洲本市消防団に消防団活性化策のひとつとして、アポロキャップが導入されることになりました。（この機関紙が発行されるときには導入されていますが。）

ご存知のとおり、平成十三年の消防団員服制基準の改正により、アポロキャップが略帽にとって代えることが可能となり、数多くの消防団で導入されてきたことかと思います。本団でも早くからその導入について検討はされていたものの、時期尚早ということで、しばらく様子をみていました。しかし、地域の消防防災のリーダーとして、より地域住民に親しまれる消防団を目指していくためにも、新たな取組みが必要との声の中で、この度の導入に至りました。

導入に当たり、まず検討しなければならないのが、やはりデザインでした。折角のキャップなので、どこにもない独自のものを作ろうということで取り組んだわけですが、最初に、キャップ正面デザインの基本イメージを手書きで作図しました。これは市職員兼消防団員である方に担当していただき、このイメージ図を基にパソコンを使って本格的なデザインを作成していきました。そして、出来上がった試作品がご覧の写真のとおりです。カラーでお見せできないのが残念ですが、少し説明しますとキャップ本体の色は濃紺で、正面デザインは消防団名を金色で「SUMOTO」としました。字体については既存のものではなく独自性をもたせ、多少アバンギャルドな感じに仕上げました。この消防団名の上に白色とオレンジ色を配色し、曲線を描きました。さらに、その上には消防団の象徴である団マークをあしらい、庇の部分は金色の月桂樹を採用しました。この試作品をご覧になった団幹部の反応は意外（？）にも好評で、ひとまず安心したところです。

さて、皆さんが心待ちにされていたキャップですが、昨年十二月二八日からの年末特別警戒で賑々しくお披露目されました。今後はこのアポロキャップが、洲本市消防団のさらなる団結と、地域住民の消防団参加促進へと繋がることを期待するとともに、末永く団員の皆様に愛されるキャップとなることを願っています。

アポロキャップ

「北播磨地区管内の合併状況」

北播消防協議会

北播磨地区は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、中央部を中国自動車道、南部を山陽自動車道がそれぞれ東西に貫通し、交通基盤の要所となっているほか、加古川とその支流による豊かな水が播磨平野を潤し、豊かな自然と共生しています。

当協議会は昭和三〇年に西脇市、三木市、小野市、加西市、美嚢郡（吉川町）、加東郡（社町・東条町・滝野町）、多可郡（中町・加美町・八千代町・黒田庄町）の七支部で構成され発足し、五〇周年を迎えました。

この地区においても、今年度市・町の合併等により各支部の消防団の名称等の変革がありましたので紹介します。

平成十七年十月一日には、西脇市消防団と多可郡黒田庄町消防団とが合併して、新たな西脇市消防団が誕生し、初代団長には遠藤明氏（旧西脇市）が就任され、全団員数は一，〇二二名（実員）で、消防ポンプ車十七台、小型動力ポンプ四二台となりました。

次に、十月二四日には、美嚢郡吉川町消防団が三木市消防団と合併して、新たな三木市消防団が誕生し、初代団長には小山伊一氏（三木市）が就任され、三六分団一〇三班、全団員数は一，三七五名（実員）となりました。

そして、十一月一日には、多可郡内の中町、加美町、八千代町の三消防団が合併して、新たに多可町消防団が誕生し、初代団長には笹倉政芳氏（旧加美町）が就任され、中区には二五分団、加美区には八分団二四部、八千代区には十五分団、全団員数は一，二七三名（実員）となりました。

それぞれの支部で合併等に伴う式典が催され、消防防災力の強化を一層図ろうと、決意を新たに活動が開始されました。

現在は、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東郡、多可町の六支部となっています。

また、平成十八年三月二〇日には、加東郡内の社町、東条町、滝野町の三消防団が合併して、加東市消防団が発足の予定です。

西脇市消防団辞令交付式

美嚢郡吉川町消防団長から三木市消防団長へ団旗引渡式

各単位の消防団は、地域性によって消防力等に違いはありますが、統一を図りながら消防団の変革を進めます。

今後も、地域に根ざした組織再編計画の策定や団員の育成など大きな課題を抱える中、地域住民の誰もが「安全・安心」なまちづくりを目指し、各種災害から伝統や自然を守る活動をしていく所存であります。

北播磨地区消防団名一覧表

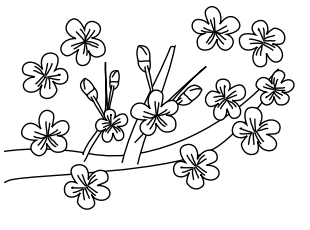
新　名　称	旧　名　称	合併等の年月日
西脇市消防団	西脇市消防団 多可郡黒田庄町消防団	平成17年10月 1日
三木市消防団	三木市消防団 美嚢郡吉川町消防団	平成17年10月24日
小野市消防団	小野市消防団	変更なし
加西市消防団	加西市消防団	変更なし
加東市消防団	加東郡社町消防団 加東郡東条町消防団 加東郡滝野町消防団	平成18年 3月20日（予定）
多可町消防団	多可郡中町消防団 多可郡加美町消防団 多可郡八千代町消防団	平成17年11月 1日

編集後記

あけましておめでとうございます。寒さ厳しい今日この頃ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号では年頭のあいさつをはじめ、消防団今昔には、尼崎市消防団長生越敏雄さん、元温泉町消防団長西村英作さんよりご寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

本年も「兵庫消防」のご愛読をどうぞよろしくお願いいたします。



世界へ羽ばたく！
GMの消防自動車
大槻ポンプ工業株式会社
●本社・営業本部
〒623-0021
京都府綾部市本町7丁目67-2
TEL（0773）42-0681（代）
FAX（0773）42-9229

消　防　団　服
甲　種　日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
乙　種　刺子・木綿
ハッピ・ズボン・腹掛・革バンド
附属品一式
キンパイホース　兵庫県特約店
株式会社　三　浦　消　防
姫路市竜野町1丁目1番地
電話（姫路 92－0447）（0792 98－8663）